

令和7年度 道目木更生園 地域連携推進会議 議事録

日 時 令和7年11月28日（金） 10:00～11:30

場 所 道目木更生園 会議室

出席者 構 成 員 利用者 Y.S様

利用者家族 S.H様

地域関係者 E.N様

福祉に知見のある方 E.A様

施設職員 施設長

施設長補佐・サービス管理責任者 1名（進行）

係長・サービス管理責任者 2名（内1名記録）

主任・事務員 1名

添付資料 地域連携推進会議 資料

地域連携推進会議 出席者名簿

道目木更生園パンフレット

1 開会

2 施設長あいさつ

本日はお忙しい中、地域連携推進会議に足を運んで下さりありがとうございます。

また、日頃は道目木更生園の運営に関しましてご理解やご協力に感謝申し上げます。

構成員の皆様には施設内の環境や利用者さんの状況を見ていただき、様々な視点から、お気づきになった点をお伝えいただきますようお願いいたします。また、会議及び施設見学にご参加いただく際、利用者さんの個人情報に関しては十分配慮いたしますが、権利擁護の観点から知りえた情報を他者に漏らすことの無いよう、格別のご高配をお願いいたします。

地域との交流については、十数年前までは十二所地区祭典を道目木会館前で開催出来ていましたが、利用者の重度高齢化により開催できなくなりました。また新型コロナウイルスの影響で、夏祭りも中止になり地域の方々との交流の場が少なくなりました。除雪ボランティアのハチ公スノーレンジャーの活動も難しくなり、年に一度神社清掃奉仕をさせていただいている状態です。今日のこの機会にご意見やご要望などいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

3 会議の目的・出席者紹介

目的

地域連携推進会議は、運営が閉鎖的になる恐れがあるグループホームや施設入所支援を行う施設において、地域の関係者を含む外部の目を定期的に入れることで、事業運営の透明性を図るため令和7年度より義務化されました。具体的には「利用者と地域の関係づくり」「地域の人への施設等や利用者に関する理解の促進」「施設等やサービスの透明性・質の確保」「利用者の権利擁護」の目的を達成することが望まれております。

出席者紹介（施設長補佐より）

4 施設見学

30分程度施設内を見学し各ユニットの特徴等を説明した。

5 会議・議題

① 事業所の紹介（事業計画・運営方針・定員（利用者状況）・職員数等）

令和6年度 事業について

事業実績については、利用者の重度高齢化により入院者が多く、特に精神科への入院者は、入院期間が長期にわたるケースが多かった。また、高齢により介護や医療的ケアを必要とする方について、介護保険施設に2名移行となった。利用者10名が退所したが、待機者の減少により新規利用者を獲得することが出来ず、法人の障害者支援施設から11名が入所となった。

令和7年度 事業計画について

〈運営方針〉

- ・法令遵守のもと、利用者の人格及び意思が尊重され、明るく豊かで安らぎのある家庭的な雰囲気の下で生活できる環境作りに努める。
- ・当法人の基本理念「破邪顕正」に基づき、自愛の心を以て利用者本位の支援サービスの提供に努力する。

1. 利用者の人権擁護への取組み
2. 利用者の意思決定支援への取組み
3. 利用者の重度化、高齢化への取組み
4. 感染症及び災害への取組み
5. 業務改善及び働く環境改善のための取組み
6. 職員の健康管理
7. 職員への資質向上への取組み

事業所として

施設入所支援 定員 98名

生活介護 定員 105名

短期入所 定員 6名

日中一時支援

のサービスを提供している。

利用者の状況について

知的障害者、精神障害者、身体障害者の方が利用しているが、知的障害者の割合が多い。最高齢は93歳、最年少は31歳であり高齢化が進んだことで平均年齢は約65歳となっている。歩き方も不安定になることがあり、加齢による身体機能の衰えが目立ち、疾病による通院が多い。

従業員の体制

サービス管理責任者、生活支援員、看護職員、栄養士、事務員、調理員、パート職員を合わせ59名が配置されている。

身体機能・生活能力の維持・向上を図る事や、重度・高齢の方々が安心して生活でき

るよう安心安全な環境作りを通し怪我や事故防止に努め、日頃から健康状態の把握を十分に行い変化の早期発見による迅速な対応に努めている。

② 障害の特性について

現在の利用者数は97名、来週1名入所し満床になる予定である。

知的障害（療育手帳所持）の方が86名。精神障害（障害者手帳所持）の方が7名。身体障害（身体障害者手帳所持）の方が23名。23名中20名は知的障害、若しくは精神障害との重複障害となっている。

高齢化が進んでおり、介護保険施設へ移行される方がいた。

③ 利用者の日常生活について

入浴について、男子は月・水・金、女子は火・木・土。入浴は午後に行っていたが、重度高齢化が進んだことで、午前中から行っている。

〈活動内容〉

男子：重度のグループ～散歩等で体力づくりや気分転換を図っている。

高齢者のグループ～感覚訓練や軽運動を行っている。

軽度のグループ～下請け作業（ニプロのシリンジ分解）に取り組んでいる。

女子：塗り絵や折り紙等の趣味活動、また体操を行い体力作りに努めている。

④ 施設行事について

夏祭りやクリスマス会、新年会等季節に合わせた行事を実施し、春と秋に家族を招いて家族交流を実施している。

社会見学旅行は、利用者自治会で候補地を選出してもらい、今年度は青森方面へ出かけ大変好評であった。

その他として、毎月ローソン・年に3回衣料品販売店に来園してもらい、買い物を楽しんでもらっている。

⑤ 運営状況の報告

施設入所支援

利用者定員 98名（入所13名、退所10名）稼働率93.2%（前年94.6%）

延入院日数 884日（前年度 771日）

※障害支援区分 平均5.0（前年度5.1）

生活介護

利用定員 105名 稼働率 89.1%（前年度87.8%）

ショートステイ

利用定員 6名 延利用日数380名（前年度468日）

稼働率17.3%（前年度21.3%）1日平均1.0名（前年度1.3名）

日中一時支援

利用者数 2名 延利用日数8日（前年度21日）

⑥ BCP(事業継続計画)の策定、避難訓練の実施状況について

自然災害や感染症などの緊急事態が発生した場合でも、重要な事業を中断させない、または中断しても可能な限り短い期間で復旧させる為の指針、体制、手順などを定

めたものである。

避難訓練は、消防署立ち合いの下、地元消防団との合同訓練を含め年6回程行っている。

感染症に関しても知識、防護服等の着脱、嘔吐物等の処理の仕方等実施訓練を行っている。

⑦ 虐待への取り組み

権利擁護の研修に参加したり、施設内学習会では強度行動障害や身体拘束廃止についての学びを深めたり、毎日虐待防止のための標語を読み上げ意識付けを行っている。虐待があったことを風化させないよう、気がついたことは声をかけ合うようにしながら、情報を共有し再発防止に取り組んでいる。

⑧ 苦情・ヒヤリハット・事故報告について

苦情 令和6年度、令和7年度 0件

ヒヤリハット・事故報告

令和6年度 93件、事故報告6件

令和7年度 48件、事故報告5件（令和7年8月31日現在）

転倒、転落、ずり落ちが多く、同じ利用者が繰り返すケースや利用者の高齢化によるADLの低下や強度行動障害の利用者の突発的な行動に対応できず、ヒヤリハットに繋がるケースがあった。

利用者の重度高齢化が進んでいる状態に加え、強度行動障害のある方も増えてきていることが考えられる。

⑨ 職員研修について

「障害者虐待防止・権利擁護」研修や強度行動障害支援者養成研修会等に参加している。令和8年度より義務化される地域移行確認のマニュアル作成等へ繋がられるよう意思決定支援研修会に参加している。

⑩ 地域との連携について

新型コロナウイルスの発生と共に感染防止の為、地域との関わりがとれなくなっていた状態が続いたが、現在は徐々に連携もとれるようになってきた。地域の小・中学校からは毎年のように応援メッセージ等をいただいたりしている。今年度は中学校の生徒が来園し利用者と一緒にレクリエーションを行った。

地域消防団とは合同で避難訓練を継続して行っている。

⑪ その他

ご意見・質問等

（利用者 Y.S 様）

- ・ 日常生活について、昨年までは入浴のない日に作業を行うように職員に言われていたが、今年に入り作業が週に2日行えば良いという形になり、作業意欲に欠け

るという気持ちがある。

→以前は利用者のみでの取り組みや入浴日以外に行えていたが、現在は入浴を午前中から行わなければならないことや、高齢化に伴いユニット内の掃除等を職員が、中心となり行わなければいけない状態になっている。

(地域関係者 E.N 様)

・作業をしている方の人数と別棟の作業場の利用状況はどうか。

→20名弱の方が作業を行っている。利用者の高齢化により作業場に行くことが難しくなり、職員体制もとれず現在は施設内で行っている。

・作業について職員が見届けしなくても、意欲のある方だけで取り組むことはできないか。

→作業を利用者だけで行った時に間違いが多く、確認作業に時間を要してしまい難しいが、作業意欲に繋がることを検討していく。

(福祉に知見のある方 E.A 様)

・参考のために虐待防止の標語はどのようなものか。

→言葉の乱れは虐待の始まりです。日頃の仕事への姿勢、積み重ねが大切です。利用者さんはもちろん、職員間においても「さん」付けしましょう。

○その他

(利用者 Y.S 様)

・感染症について、なってしまったのは仕方がないが予防を考えなければいけない。日頃からの衛生管理が大切だと思う。

→感染症防止については、日頃から手洗いや外出の際にはマスクを使用するなど、今まで行っていることを継続すれば予防できると思う。

(地域関係者 E.N 様)

・水害で大きなため池が決壊した。来年、雪が消えてから復旧するために、重機を使用し道目木更生園近くの畑から土を運ぶ予定がある。

・少子高齢化や感染症の関係で地域交流がなくなってしまった為か、地域で道目木更生園や軽井沢福祉園の話題が出てこなくなり寂しい気がする。何かあったら声をかけ合うようにしたい。

(利用者家族 S.H 様)

・交流会の行事で感じたことですが、職員が利用者に寄り添い笑顔で接しているのを見て、ありがたいと感謝しています。

(福祉に知見のある方 E.A 様)

・施設自体を知っていたが詳しく知る機会がなかったので、接点を持つことができてありがたいと思っている。

・地域自体も高齢化で行事を担う方や後継者作りが難しく、行事を縮小したり止めているという話を聞いているので、地域の祭典に要請があれば協力したいと思っている。

- ・地元の小/中学校は花ボランティア等で地域活動を頑張ってくれている。そういう所と連絡をとりあっていければ良いと思う。

(施設長)

- ・9月の大雨の際、沼下の川が増水により氾濫した。通行できなくなる恐れがあり、自治会長に連絡した。その後、消防署に連絡したところ3時間後に見回りに来てくれた。その時には落ち着いていたが「陸の孤島」になるのではないかと心配になることがあった。
- ・自治会長からクマの情報等をもらった際には、皆で情報共有し注意喚起している。
- ・保護者との交流会も昨年から再開できた。先日、地域の中学校の生徒がレクリエーション交流会でゲームや歌を披露してくれた。これから地域交流の在り方を模索しなければいけないと思っている。

6 施設見学を終えて

委員の中に顔見知りの方がおり、利用者さんも大変喜ばれていた。

7 閉会のあいさつ

今回いただいたご意見を参考にし、利用者の方々の意思決定など気持ちに寄り添いながら、安心して暮らせるよう地域と連携した施設運営を模索していきたいと思えます。今後ともよろしくお願い致します。

以 上